

平成28年度学校評価報告書(自己評価)

<p>本年度の重点目標</p> <p>○〔重点目標1〕 信頼される学校づくりの推進</p> <p>○〔重点目標2〕 小規模校・少人数学級のメリットを生かした、「知・徳・体」のバランスを重視した学習指導の推進</p> <p>○〔重点目標3〕 健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育の推進</p>
--

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手だて)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	学年通信や・学級だよりも保護者に対する学校広報活動としてとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上のペースで学校通信「北っ子だより」を発行し、毎回ホームページにも載せた。 ・行事報告だけでなく、学力テストや学校自己評価、保護者評価等の集計結果など具体的な対策を伝えることができた。 ・まちづくり協議会・PTA役員会等では、本校(児童)の良いところをアピールしてきた。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校通信については、「他学年の様子もわかるので良い」等の声が保護者や地域から上がっており、評価は高かった。 ・まちづくり協議会や思永中校区地域推進協議会などで学校の現況を知ってもらうことができた。 <p>【改善方策・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ本校の子ども達の良さが伝わるような内容を発信をしていく。
	②【いじめ防止】学級活動・委員会活動等、児童が自主的に「いじめを許さない」という課題に取り組むよう指導する	<p>【いじめに関するアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のいじめ防止サミットに向け、各学級や委員会活動でいじめをなくすための取組について検討し、サミットへ代表児童3名が参加した。 <p>【不登校対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケートや抑うつ診断テストなどで気になる子の教育相談を行い、必要に応じてケース会議を開いた。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童については、組織的に対応できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知件数が0だったが、心のアンケートを見る限り全くの0というのが疑わしい。次年度はさらにアンテナを高く張りあらゆる方面からいじめの初期段階を察知するよう努力する。 ・3学期になって不登校となった児童が2名出たが、保護者と連携を図り、保健室登校から始めている。現在少しずつ解決に向かっている。
	③【特別支援教育】年間を通じた計画的な取り組みを推進し、継続案件については保護者・関係機関との連携を引き続き図っていく	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談を実施(1年生1回)。 ・SCIによる保護者の心のケアを通じ、子育て相談を実施した。 ・特別支援センター教育相談2名、継続。 ・就学時検診・入学説明会で小倉北特別支援学校と連携を図り、新1年生の状況の把握とデータの収集を行った。 ・通常の学級における特別支援教育について、指導主事を要請し、職員の研修会を行った。 	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末から続いている教育相談児童2名が29年度からの通級教室に申し込めた。 ・授業を見てもらいながら巡回相談を受けたので、特別支援教育の視点から見た授業改善につながった。1年生だったので、特別支援に限らず指導の徹底という面からも効果があった。 ・保護者との話し合いで、新年度に教育相談を申し込む児童が2名になった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談の学年を増やし、授業改善につなげていく。
	①算数科については、子どもの一人ひとりの領域別の習熟度に合わせ、TT授業や少人数授業で習熟度別指導を実施する。(3~6年生)(①)	<ul style="list-style-type: none"> ・6月から、3年生以上の全ての学級で少人数授業を行った。 ・主に少人数担当者と担任による少人数授業を実施したが、単元によっては主幹教諭も含め3分割授業を行った。 	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3分割授業を行うなどより少数で授業を行ったため、一人一人の課題(未定着)に応じた指導ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TT授業も少人数授業も、学習展開の中で児童が自分の意見を表現できるアクティブラーニング型にしていく必要がある。

重点目標2	①放課後学習「北っ子タイム」実施方法や内容を再度検討し、子どもたちが「わかる・できる」結果が出せる時間とする。	・放課後の時間を活用し、算数科の補充学習を中心にに行った。 ・習熟の不十分な内容に焦点を当てたプリントを準備し、各学年担任+1の体制で15～20分間、月・火・木の放課後に実施した。	B	【成果】 ・放課後学習が全学年に定着したこと。 【課題】 ・学力状況調査に結果が出せなかった。・時間延長で、意欲低下の児童も出てきた。 ・児童がやる気を出しつつ、確実に結果が出せる取組を詳細に検討する。 ・ひまわり学習塾を有効に活用し、児童の定着を図る。
	④「朝のあいさつ運動」のボランティアを募り、活動の定着とボランティア引継の足固めを行う。	・学年始より毎週水曜日に担当の学年を決めてあいさつ運動を行った。 ・担当の委員会も隔週交代でボランティアとして参加した。	A	【成果】水曜日のあいさつ運動が定着してきた。地域の方から、あいさつが良くなってきているというお褒めをいただいた。 【課題】 あいさつをする子は増えたが、気持ちのこもったあいさつが十分でない。明るく・大きな声で、誰にでもあいさつする子を増やしていかなければいけない。
	①スポーツテストを全学年で行う、教育委員会が推奨する準備運動を毎時間行うなど、市の取組を確実に実施する。 ①運動会などの行事や集会でキッズダンスができるときには常に全校一斉に行い、体力向上を図る。 ①以下の取組で運動の習慣化を図る。 ・12月から毎週火・木の中休みにマラソントimeを設定し運動場を走る。 ・3学期に、全校統一のなわとびカードを配布し、縄跳びタイムに取り組む。	○スクールプランの『体力向上』の一環として取り組んだ。 ・一校一取組として、年間を通してキッズダンスを実施した。 ・雨天時の昼休み時間に体育館を開放した。 ・12月から毎週火・木の中休みにマラソントimeを設定し運動場を走った。 ・3学期に、全校統一のなわとびカードを配布し、縄跳びタイムに取り組んだ。 ・新体力テストの結果をもとに、体力向上担当者を中心に分析し、全職員で児童の実態を把握するとともに、体力の測定値向上につなげる具体的な取組を検討・実施した。(握力強化策など)	B	【成果】 ・全校体力テストの結果を生かし、投力を高める運動に取り組めた。2学期末に実施したボール投げの記録は90%以上の児童の記録が伸びていた。 ・キッズダンスも講師を呼び、できるだけ正確に体力がつくようなダンスができるようにした。 ・児童が喜んでキッズダンスに取り組んでいる。 【改善策・課題】 ▼「体育の授業以外でも運動やスポーツを行っている」と答えた児童が80%台に落ちた。休み時間はほとんど運動場に出て遊んでいるが、家に帰ってから運動に親しんでいる児童が減っている。 ◆次年度は、体育の授業の進め方について全担任が共通理解し実践する計画を立てる。
重点目標3	健康教育を推進する	・給食後の歯磨き習慣の定着(歯磨きチェックシート活用)夕食後の歯磨き習慣の定着 ・う歯放置児童のゼロ化 ・家庭への情報提供と協力の要請 ・各種アンケートの実施、分析と個別児童への対応	B	【成果】 ・北九州市学校保健会より『優秀賞』を受賞した。 ・計画通り、学校健康委員会を年3回開催することができた。 【改善策・課題】 ・昼の歯磨きを行う習慣が薄らいできたので、歯磨きチェックシートの活用を図る。 ・夕食後または寝る前に歯を磨く習慣が定着していない。 ・う歯を放置している児童がいる。
	食育の推進・食に対する感謝の心の醸成	・給食を受け取りにいくときや返却するときに感謝の気持ちが育つようにした。 ・給食週間の取組を行った。	A	【成果】 ・主に給食週間の取組で児童が調理士さん・食材を運んでくれる業者さんの苦勞を知り、感謝する心の育成できた。 ・外部講師の招聘により、様々な学年で食育を進めることができた。 ・栄養教諭による食育がどの学年でも実施できた。 ・牛乳バクテリアサイクルがすっかり定着した。 【改善策】 ・次年度も活動を継続していく。